

南国市を

魅力ある都市に

Ⅱ公開パネルディスカッションⅡ

新しい街づくりを考える公開パネルディスカッションが、六月二十九日、社会福祉センターで開かれ、百人余りの市民の皆さんが参加しました。

これは、南国市の将来と街づくり、後免町の活性化と再開発、中心部の発展の可能性を考えてもらおうと、市商工会青年部（溝淵修



新しい街づくりをと約百人の市民が参加した。

一部長）が主催したものです。

まず、溝淵青年部長が「パネリストだけでなく、一般の皆さんも参加して、問題点と夢をつかんでください」とあいさつ。市議会の門田副議長、市商工会の吉村会長が祝辞を述べた後、パネリストが紹介されました。

パネリストは、コンサルタントの金山隆一氏と市原輝夫氏、市民代表の西森律氏と窪川茂夫氏、商店主の中沢明三氏、坂本源一氏、井上長志氏、県・市の行政関係者の十二人。それぞれの立場から、南国市の街づくりについて意見を発表しました。その主なものは次の通りです。

- 後免町を修復して後免回廊として再生する。
- 新しくショッピングタウンをつくる。
- 後免町をふれあいの場として発展させていく。
- 後免町の結束を図る。

○商工会の跡地を有効に利用する。
○生活者としての消費者の実態を把握し、体質強化を図る。

○行政とともに、将来の都市計画を踏まえた街づくりを行う。
○市民の余暇時間を考えた街づくりを行う。

○商店街を商業空間として認識し、サービス精神を持って自助努力をする。

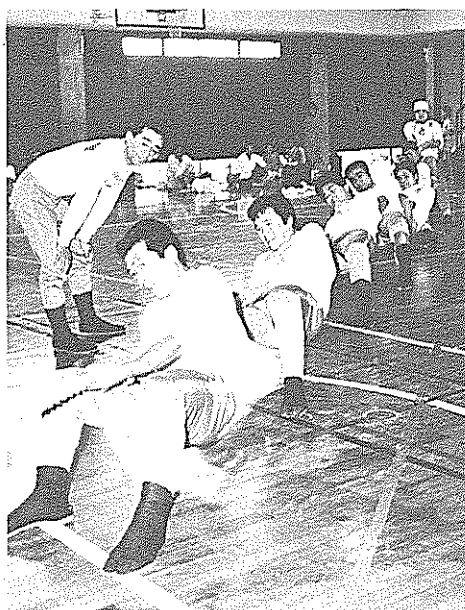
これらの意見を受けて討論が行われ、会場からも熱心な意見が出されました。

最後に、この会を今回だけで終わらせずに、今後も円卓会議を開いて、大きなうねりにしていくことを提案、閉会しました。

会 議 委 員 会 会 長

十市農協が 連続優勝

～第2回市綱引大会～



監督の指示に従い綱を引く選手

市綱引連盟（中村隆洋会長）主催の第二回南国市綱引選手権大会が七月六日、市民体育館で開かれ、十市農協チームが昨年に引き続き二年連続優勝しました。

綱引きは最近、仲間づくり、健康づくりのスポーツとして人気が高まっていますが、もっと広く知ってもらい競技人口を増やそうと、昨年からの大会が開かれており、今年は高知市からの三チームを含め七チームが参加。家族や職場の仲間らの声援を受け熱戦を展開しました。

南国市はレベルが高く、一昨年は三和体育会（現在は三和太平洋クラブ）、昨年は十市農協が県大会で優勝しています。

綱引きは力だけでなく、審判ワークとタイミングが大切。審判

の「レディー・ゴー」の合図で試合開始。八人の選手が呼吸を合わせ綱を引っばると、綱はピンと張って一瞬静止状態に。監督の指示で力をためておき、そして一気に「ヨイショ、ヨイショ」と引っばります。

決勝戦は、十市農協と三和太平洋クラブの実力者どうしの対戦でしたが、十市農協が二勝して連続優勝を果たしました。

なお成績は次の通りです。

- ① 十市農協② 三和太平洋クラブ
- ③ 中田組

